

業務部速報



No. 36

発行 22. 11. 8

JR東労組 業務部

申6号 年末手当等に関する申し入れ 第2回団体交渉を行う！ その4

職場からの多くの声と職場現実に向き合い、並々ならぬ努力に報いるべきだ！

■営業 ・全国旅行支援や入国制限解除でお客さまの利用は増えてきている。

- ・みどりの窓口閉鎖が進み、MVでも買えるものは限られて、予備の窓口を開けて対応せざるを得ない状況もある！
- ・チケットレス化を進めているが、使い方が分からないお客さまの問い合わせがあり業務量が増加している。
- ・チケットレス化やICT化により、駅案内業務に必要なスキルや知識も今まで以上に求められている！
- ・他駅の業務や企画業務など労働密度が高まっている！
- ・コロナ禍でも変わらずに仕事をしている。マスクをしない人も増え、不安の中仕事をしている。感染者が出た時には、勤務変更や休日出勤など、協力してきている。

■乗務員 ・ダイヤ改正の度に乗務密度は上がり、拘束時間も増え、睡眠時間は減少している。一人何役も担い負担増だ！

- ・ワンマン運転の拡大、無人駅拡大で負担増だ！
- ・企画業務を行い乗務手当が付かず収入は減少。納得感モチベーションは全くない！ 職場現実・組合員の現実に向き合った誠実な回答をすべきだ！
- ・私たちのやる気はお金！やる気を削ぐ回答はやめて！
- ・車内精算の機会も増え感染リスクはある。コロナに対する手当がないことを踏まえ特別手当を支給すべきだ！

■かんり ・「変革 2027」に伴う施策が矢継ぎ早に行われるが、どれも説明不足で見切り発車が殆どではないか。

- ・職場は混乱したまま業務をしているのが実態だ！
- ・社員説明も十分に出来ず、十分な教育がないまま、業務を行うのは不安しかない。
- ・働き方の密度は高まったが収入が上がった実感はない。

■医療 ・コロナ禍においても医療業務は止めることが出来ず変わらず対応してきた。クラスターを起こさない努力は、家庭内も含め行ってきた。

- ・家庭内感染を防ぐため、旅行・レジャー・外食など控え、子どもにも協力してもらいバイトを辞めてもらった家庭もある。会社は真摯に受け止め応えるべきだ！

■検修 ・元々手当が付かなく基本給で生活している。「3.3ヶ月でも足りない」という悲痛な叫びが届いている！ 将来を悲観し次々に若手が辞めている！

- ・賃金を理由に辞めている。会社はこの実態を直視し、職場の奮闘や離職を止めるために満額回答すべきだ！
- ・サフィールの外板清掃をJR 本体社員が行っている！プロの業者の方が綺麗だし、道具も揃っていない、やり方も説明されていない。要員ひっ迫にも繋がっている！

■工務 ・日々の作業にムダはないか、徹底的に洗い出し施工手順や保守用車などの大型機械の運用方法見直しを行いコストダウンに努めてきた。除草予算を付けていない。苦情対応のための直轄除草を行っている。

- ・総務センター化で系統問わず対応してきた。企画業務も加わり幅広い知識が求められ自己研鑽してきた！
- ・本来業務に加え、施策の勉強、若手の技術継承も行うが、賃金は変わらない！
- ・大雨で線路設備に大きな被害が出たが早期復旧に向けて昼夜を問わず対応してきたのは現場で働く私たちが！

■きかく ・ユニット制となり一人ひとりの業務量が見えなくなった！

- ・組織再編で担務と業務管理規程が相反しているなど業務に支障が出ている！
- ・指令室では延発を入れる機会、優等列車からの特急券や遺失物の問い合わせが増え乗客の増加を実感する。
- ・駅信号が機能不全に陥って指令が見るところが増えた。

■エルダー ・清掃業務は過酷な労働実態だ。身体には症状として多く現れている。仕事前にロキソニンを飲んでいて、身体を壊してまで業務を担っている。努力に報いるべきだ！

- ・福島県沖地震で被災し退職を迎えるのに家を建て替えローンを支払ってはいない現実を抱える社員もいる。
- ・エルダー社員を含め社員の努力に支えられている！
- ・国鉄改革を担い会社の発展に注力してきた先輩に報いるべきだ！

本部に届けられた現場の声を団体交渉で会社にぶつけました！